

# 民児連広報

発行 令和6年9月30日

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

旭川市5条通4丁目

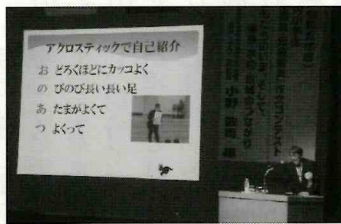
旭川市ときわ市民ホール1階

旭川市社会福祉協議会内

電話0166-56-0150

発行人 佐川 徹

## 写真で見る民児連の動き



令和6年度(第102回)旭川市民生委員児童委員連絡協議会大会(5/18)



芽室町民児協視察受入(6/27)



幕別町民児協視察受入(6/26)



旭川市役所パネル展(5/7~5/31)



旭川しんきんパネル展(7/1~7/31)

種は詩かなければ 花も咲かないし 実もならない  
 旭川市民生委員児童委員連絡協議会  
 会長 佐川 徹

今年も後4か月弱となり、心なしか虫の声も寂しさを感じさせ、あの体温よりも暑い気温は何処に行っただのさと思えます。

年明けから能登半島地震があり、その後全国各地で豪雨災害が発生し大変な被害を被っています。日本だけではなく地球規模で発生しています。また、戦争で多くの方の命が奪われているのも現実です。

今年の上半年は、旭川市の名前も全国的に報道されました。私達には考えられない事が身近にあるという事を認識させられたのは事実です。あの忘ましい、暗いニュースでしたが、逆にオリンピックでは歓喜をもらいました。槍投げの北口選手、バスケットの町田選手、その他の選手もすばらしかったです。日本の武道は礼に始まり礼で終わると言われます。勝負には必ず字のごとく勝つがあり、負けがあります。しかし、勝者は敗者の気持を重んじ、その場では決してカッポーズはしない。まさしくそれが日本古来の武道です。

さて、民生委員制度が創設されて100年が過ぎました。創設当時は、生活困窮者救済が目的でしたが、今は生活困窮者救済よりも生活状況のあらゆる案件に対応を求められている状態です。その様な中で、昨今言われているのが、手不足、なり手確保です。来年度の12月は全国一斉改選です。今現在、全国では約1万5千人の欠員が生じています。これから先には、もっと増える可能性があります。逆に人口減による民生委員児童委員の減も生じるかも知れません。

前年度、初の試みで行いました『作文コンテスト』は、かなりの評価を頂きました。当然賛否はありますが、このコンテストの実施の中には、ごも達の未来に一人でも民生委員児童委員になってくださる方が出てくれる期待、また保護者の方も同じです。民生委員児童委員活動の一つでもこの機会に理解をして、参加をしていただけるよう、地道ですが継続して今期も実施していきたいと思えます。ご協力をお願い致します。

声だけではなく、『種を蒔きましょう。花を咲かせましょう。実をつけましょう』そして、『安心して暮らせるまち、安心して暮らして行けるまち、すーっと暮らしたいまち』そんなまちを目指し、『明るく、楽しく、元気よく活動しましょう。』

一人では難しくても、約800名の皆さんの力を合わせれば絶対出来ます。そんなまち旭川、全国のモデルになるよう頑張ります！！

# 地域共生社会について

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会

事務局 次長 松林 邦昭



旭川市の民生委員児童委員の皆様におかれましては、日頃から旭川市社会福祉協議会の活動にご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様は地域共生社会という言葉をご存じでしょうか？旭川市においても令和4年4月に「旭川市地域共生社会の実現に向けた施策の推進に関する条例」が制定されましたが、今、国全体でこの地域共生社会を実現するための取組が推進されています。

厚生労働省の資料によりますと、地域共生社会とは、「制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」「つながること」で、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」とされています。

最近では高齢化、少子化、人口減少、景気の低迷など社会状況の変化により、これまで地域・家庭・職場のつながりや支え合いで解決していた困りご

とへの対応が難しくなっています。

それらの困りごとは、80代の親が50代の子どもの生活を支える8050問題や子育てと親の介護が同時に生じるダブルケアの問題、引きこもり、ゴミ処理が困難な世帯など、複合的、複雑的で難しい事例が多くなり、これまでの高齢者、障がい者、子どもなどの高齢者、障がい者、子どものように、制度・分野ごとに縦割りされた相談窓口では、対応できない事例も増えています。さらに、困っている人を見つけることも難しくなり、重症化してから相談や最悪の事態になってから発見される事例も少なくありません。

そこで、相談機関では、制度・分野ごとの縦割りではなく、「包括的」に「まるごと」、個人ではなく「世帯全体」を対象として、「横の連携」をとりながら対応することが必要となり、令和4年度から旭川市においても地域まるごと支援員が配置され、制度や分野、世代を問わない相談に対応するとともに、一部の人だけではなく、これまでの支えられ人、支える人という関係でも

なく、誰もが参画できるような地域づくりを推進しています。

最後に、地域共生社会の実現に向けて皆様にお願ひしたいことがあります。隣近所での声かけや見守りなど、日頃からのつながりづくりをお願いします。また、困り事を抱えている人を見つけた場合には、相談を促していただきたいと思います。もし、自分で相談することが難しい場合には、社会福祉協議会にご連絡いただきたいと思います。さらに力を貸していただければ、地域でのボランティア活動への参加をお願いします。

このように、行政、福祉関係機関、地域住民が一体となって旭川市における地域共生社会の実現に、一歩ずつ近づいていきたいと思いますので、皆様のお力添えをどうかよろしくお願いいたします。

## 「令和6年度 住民支え合いマップ 研究協議会」に参加して

神居西地区民児協 会長 斉藤 素子

当地区ではマップ作り際に、地域の情報の整理をしてデータ化し、USBメモリーに入れて委員各自が管理することにしました。地域の地図を拡大

### こんな時は、地域まるごと支援員 (旭川市社会福祉協議会) にご相談ください。

- ・課題が多すぎて、どこに相談して良いかわからない世帯の相談
- ・自分で助けを求めることができない人の相談
- ・ボランティアをしてみたい又は、ボランティアをお願いしたい場合の相談

A地域	豊岡、東旭川・千代田、東光
D地域	神居・江丹別、神楽・西神楽
電話：0166-73-5310 FAX：0166-73-6310 〒078-8320 旭川市神楽岡10条5丁目1番28号 地域福祉活動拠点すずかけ	
B地域	中央、新旭川・永山南、永山
C地域	末広・東鷹栖、春光・春光台、北星・旭星
電話：0166-23-0742 FAX：0166-23-0746 〒070-0035 旭川市5条通4丁目893番地の1 旭川市ときわ市民ホール1階	

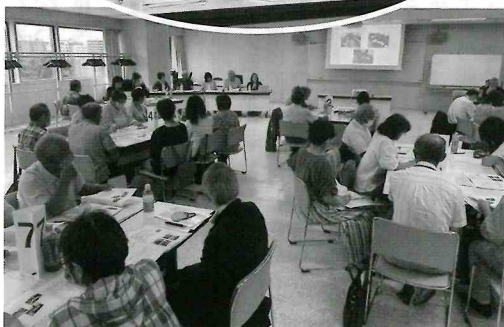
Mail : seikatsu-shien@asahikawa-shakyo.or.jp

コピーして担当地区ごとに貼り合わせ、情報を記入しました。マップにより情報を可視化できるようにになり、活動の幅が広がったという発表をさせていただきました。

次に、輪島市が数年前からマップ作りをしていたので能登半島地震の時に多くの命が助かったという事例に習い、道民児連でも、この取り組みを拡大させて持続させたいというお話がありました。

続いて15年前からマップ作りを持続され

ている富良野市民児協からは、取り組みを持続させていくための方法等が話されました。今後の活動を考えるうえで、たいへん参考になる研修でした。



## 令和5年度

# 全国民生委員児童委員連合会 会長表彰”末広東地区民児協“

会長 早川 隆子

私たちの地区は、令和元年の一斉改選の時に3名の新しい委員を迎え、13名で末広東地区民児協として活動を始めました。

活動を始めて間もなく、新型コロナウイルス感染症の拡大により、思うような活動や委員同士の交流をする機会もほとんどないまま2年目になり、どの様な組織づくりを行っていかば良いかを考えている時に、道民児連市町村民児協活性化事業（テーマ特化型指定）の中に「災害に備える民児協組織づくり」という項目を見つけました。

さっそく定例会の時に、この事業に取り組まないかを提案したところ、全員一致でこの取り組みに賛成してもらいました。

地域が石狩川流域にあること、防災マップをつくると、マップづくりを通して委員同士や関係機関とのつながりづくり、災害への意識を高める

活動を目的として令和3・4年度の2年間、モデル指定を受けることができました。

令和3年度は、まだコロナ禍でしたが、道民児連発行の「災害に備える民生委員児童委員ハンドブック」を使いながら、講師の篠原先生から災害時要援護者支援活動のポイントや災害に備えた民生委員児童委員活動の変遷について学習しました。

また、先生ご自身が実際に用意している防災リュックを見せていただき、私達もリュックをつくることにしました。さらに災害時に支援が必要な住民を可視化するために「災害福祉マップ」をつくることを提案され、アドバイザーをいただきながら、委員全員で地図づくりを頑張りました。このマップは令和4年の一斉改選時に、新任委員への引継ぎに役立てることができました。

令和4年度には、「災害時ひとりも見逃さない地域づくり」研修会を開催し、町内会役員や

関係機関の人達にも参加していただきました。また、年6回開催した学習会の中では、実際の災害（予測ができる台風）を想定した声かけ訪問の実施、災害時の「食」に関する課題、食物アレルギーへの対応・備蓄の方法などについて学習しました。

末広東地区の防災マップを作成し、地区内の4つの町内会に協力いただき、市の広報誌「あさひばし」とともに約2千700世帯に配付しました。

このように、先生から提案や助言をいただきながら活動したことに對して、「優良民生

委員児童委員協議会」として会長表彰されたことは、委員一同とても嬉しく、それ以上に驚きでいっぱいです。2年にわたり学習したことを第一歩として、地域の人々の防災への意識を高める活動とともに、これからの民生委員児童委員活動に役立てていきたいと思えます。



マップの情報共有



防災リュックの確認



防災訓練・声かけ訪問



地域合同研修会の様子



東部東光地区民児協

岡澤好弘

初めて、全道児童委員活動研究集会に参加させていただきましたが、あつという間の2日間でした。

基調説明、分科会、(私は分科会2に参加、全体会、講演とこれも興味深く、勉強になることばかりでした。

基調説明では、主任児童委員についてよくわかりました。また、国の子どもに関する施策がめまぐるしく変化していること

## 全道児童委員活動研究集会

朝日地区民児協

主任児童委員

素野香織

8月21日、22日の2日間、本年度の全道児童委員活動研究集会に参加させていただきました。各地区各地域の委員同士、普段の活動では得がたい「コミュニケーション」の場であることをあらためて実感しました。

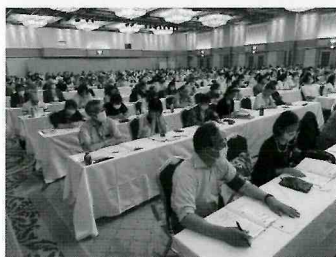
さて、今回私が希望した分科会は『子どもへの暴力防止のプログラム』のワークショップ。

子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、性暴力といったさまざまな

とに驚き、勉強しなければと思いました。

分科会2では、3地区の活動報告がありました。どれも具体的な実践で大変参考になりました。コーディネーターの長谷川氏(北海道医療大学非常勤講師)の言葉「事例に学ぶとは、まねるのではなく、そこにヒントを見つけていること。できる、できないではなく、自分の町の活動に役に立つことを何か見つけること」が印象に残っています。当地区で何が参考にできるかを考えていきたいと思いま

な暴力から自分を守るためにできることを体感するもの。これが大変興味深かった。：。自らが小学3年生にタイムスリップして、「ツライ」「かなしい」思いをめぐらして、「いや」「やめて」を声に出し、ときに体を使って身を守る術を知る。CAP(キャップ)スペースリストと呼ばれる方たちの迫真の(?)劇を通じてより具体的なアプローチの方法などが示されました。印象に残ったのは、「してはいけないよ」というより「していいんだよ」という言葉かけ。身を守るための行動



の選択肢を広げる大事なアプローチだと思いました。

2日目最後、東北文教大学非常勤講師であり主任児童委員でもある奥山留美子氏のお話も、実務者ならではのリアルさで心に刺さるものがありました。

今回研修で得たことは、さまざまな事情で参加がままならなかった方たちと、できる限りの情報提供と情報共有をはかりたいと思うとともに、自分の活動の力としていきたいと思えます。

最後の講演では、奥山さんのエネルギーッシュで具体的な話に引き込まれ、あつという間の90分でした。多岐にわたる経験からくる具体的な話は、とても参考になることばかりでした。あまり他地区の方と話す機会がなかったため、食事会の時は貴重な機会となりました。来年度は全国大会が札幌で開催されるそうです。機会があれば、ぜひ参加してみたいかがですか。

## 第2回作文コンテスト

今年度も、地域共生社会の実現を目指すとともに、「支え合う 住みよい地域」づくりへの理解を深めていただくことを目的に、旭川市内小学生(5・6年生)『民生委員・児童委員』作文コンテストを実施します。

地区内の小学校への依頼・周知など、ご支援ご協力をお願いします。

## 令和7年度全国大会

来年度は、9月4日(木)～5日(金)の2日間、札幌で開催されます。主な会場は、北海道立総合体育センター(北海きたえーる)と札幌コンベンションセンターとなります。詳細は、常任理事会を介してお知らせします。

## 主任児童委員制度創設30周年

少子化の進行、児童虐待の深刻化、不登校の課題などにより、児童委員への期待が高まり、平成6年1月1日に主任児童委員制度が創設され、今年で30年目となります。創設時の委嘱数は、1万3千173名でした。

## 民生委員・児童委員の日

毎年5月12日は「民生委員・児童委員の日」です。これは、大正6(1917)年5月12日に岡山県済世顧問制度設置規程(現行民生委員制度の先駆的な制度)が公布された日です。また、5月12日～18日は、「活動強化週間」となっています。

## 編集後記

今回の広報誌は、できるだけ写真を多く使用しましたが、如何だったでしょうか?少しでも読んでいただく広報誌を目指し、以前のように委員の俳句や短歌といった趣味活動も掲載していこうと考えています。その際は、ご協力をお願いします。

《広報編集委員一同》

## 謹んでご冥福をお祈りいたします

末広地区

藤谷智子委員

(令和6年5月2日逝去)

神楽岡地区

大越 勝委員

(令和6年5月17日逝去)